



沖田 ゆかり 議員

Q 町民の健康増進を

A 町長

町民ひとりひとりに合った健康づくりを推進していく。

【Q1】

带状疱疹は、子どもの頃に感染する「水ぼうそう」のウイルスが、治癒後も体の感覚神経に潜伏し、大人になって加齢や疲労によるストレスなどにより発症する病気で、80歳までに3人に1人が発症する疾患と言われている。眠れないほどの激しい痛みを伴い、高齢者では発症した場合、重篤化するリスクが高くなる。ワクチン接種費用が4万～5万円かかるため、年金生活の高齢者には負担が大きく全国的にも200を超える自治体で公費助成が拡大している。熊野町においても取り組んでいただきたいが。

【A1】

带状疱疹予防ワクチンは効果が認められているが、定期接種ではないため助成は実施していない。今後、国の動向を注視していく。

【Q2】

将来の妊娠を考えながら、女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うための健康管理を提供するプレコンセプションケアについて、熊野町での取り組みは。

【A2】

非常に重要な取り組みと理解している。今後調査研究していく。

【Q3】

プレコンチェックシートを町のホームページや公式LINEで周知していただき、自身で健康管理ができるように啓発していただきたいが。

【A3】

町のホームページに掲載し自身で健康管理ができるように検討していく。

Q 困難な問題を抱える女性への支援を

A 町長

必要な支援体制を構築していく。

【Q1】

令和6年4月から施行される「困難女性支援法」について、熊野町での取り組みは。

【A1】

女性専用窓口はないが、こども夢プラザに母子父子自立支援員、家庭児童相談員を配置して相談に対応している。

【Q2】

広島県ではDVの相談件数が多いようだが熊野町ではどうか？

【A2】

子どもの発達や虐待などの児童の養育について20件、児童扶養手当や生活援護などの経済的支援について9件、DVが12件となっている。

【Q3】

DVで自立支援施設にいた方は心身ともに疲弊している。住民票の異動などの事務手続きについては職員が同行して行っているのか。

【A3】

住民票の手続きや医療受診などにも専門員が同行し、被害者に寄り添った支援を行っている。



Q 筆の里工房及び周辺整備計画は

A 町長

筆文化と長年の文化芸術活動を強みに町民主体の新しい交流体験施設をつくる。

【Q1】

町は人口減・交流人口増・景気対策などのため、観光交流拠点整備構想を超短期間で作り、体験型交流施設の設置を決めた。

熊野モール周辺は年間約200万人の交流人口を集め、次は世界的ハンバーガー店の出店が準備されている。益々活気が出て人口増が見込まれる。道路など優先整備が行政の役目では。

町民は桜の花見や大人も子どもも楽しめる観光いちご農園を求めている。

【A1】

筆文化と長年の文化芸術活動を強みに筆の里工房は博物館として、体験交流施設は町民の主体的活動の場として文化的・経済的な価値を創造する魅力的な交流施設として整備する。



▲筆の里工房周辺整備事業

Q 道づくりはまちづくり。県道延伸をどう活かすか

A 町長

地域資源や特性を活かし都市と自然の共存したコンパクトで持続可能な町に。

【Q1】

「町の将来像」が立地適正化及び公共交通計画で示されたが、残念ながら県道延伸が入っていない。

県は事業を進めて4月からは用地立ち合いに入る。

町長も県と連携し将来像実現に地元に入っては。

【A1】

多様な資源や地域特性を最大限活かし都市と自然の共存した暮らし、コンパクトで持続可能な町を実現する。

また、魅力ある公共交通に拠点整備や幹線軸と生活交通網を整え、生活・通勤・通学など利便性向上を目指す。



▲県道矢野安浦線バイパスの供用開始区間